

お国は?と女が言つた

ずっとむかふ…
ずっとむかふとは?

南方。南方とは?…

南方は南方。…常夏の地帯、

竜舌蘭と梯梧と阿旦とパパイ

ヤなど…あれは日本人ではな

いとか日本語は通じるかなど、

談じ合いながら世間の既成概

念達が寄留するあの僕の國…

亜熱帶。アネッタイ!

世間の偏見達が眺める…

沖縄の代表的な詩人山之口謙

甦る沖縄力

(明治三十六年～昭和三十八年)の「会話」という詩の一節である。「日本人になりたくてなれなかつた日本人」といった政治家もいた。

沖縄振興審議会委員
(財団法人 おきなわ女性財団 常務理事)

友利 敏子

安心してそれぞれの個性を主張する事が出来る様になつた。アメリカ世からヤマト世を同化でなく世替りと認識した沖縄的アイデンティティは、十四世紀から十五世紀にかけて「向う方撓て」の精神で大交易時代を経験したインターナショナルカジマヤーの心意気を取り戻した。

沖縄本島から南西へ約三百十km、二百一十六kmの隆起珊瑚礁の三角形の宮古島。視野を遮る物の無い真直な道をドライブしていると、まるで大陸のハイ

ウェイにいるような錯覚になると来島者達は口を揃えて言つ。山もなければ川もない島の水源は地下水である。この命の源である地下水を化学肥料の硝酸性窒素汚染から守る取組みと土壤づくりを通して島の農業発展を目指した宮古農林高等学校環境班は、島の土壤から分離、選抜した「B-I-O-P（バイオリン）」の研究開発をスタートさせた。島の基幹農作物の甘庶のバガスや糖蜜などを利用し有機酸生成性能を有する微生物の機能を活用し化学肥料使用により土壤に蓄積されたリン酸を分解し再利用することから、化学肥料を減らす事が出来るというのである。

このような地道な九年間の取り組みを、Where is the MIYAKO Island? で始まる会話形式のプレゼンテーションは決して流暢な英語ではなくむしろ宮古島訛風英語が好感度抜群で評価アップ。見事、二〇〇四年度第八回「ストックホルム青少年水大賞」を受賞、小さな島の高校生徒が「水のノーベル賞」に輝いたのである。

中央指向の単一価値観が綻び始めると、あつという間に多様な視点が拡がつた。都会化が遅れた島々は、鮮烈な個性となり、失われた魂の故郷となつた。沖縄やアネッタイはマイナーなものではなく癒しの地となり、島々は本来のパワーを甦らせた。

賛否両論はさておき同じ土俵に立てた日本復帰（昭和四十七年）が、大きな節目となつた事は否めない事実である。大小の島々に確固たる所属が定まり、

ST）の創設学長のシドニー・ブレナー博士は、日本、アジア太平洋地域、そして世界全体の科学に大きな影響を与えると講演で述べ、世界最高水準（Best in the world）を目指す沖縄科学技術大学院大学（OIST）の新時代のウォーターリサイクルのイニシアチブを始動した。

長年培つてきた沖縄人のイチヤリバチヨーデー・ヌチドタカラの心をベースにしたホスピタリティで、甦つた沖縄力を全世界へ発信して行く未来図に夢が膨らむ。

昨年シーゲン女子プロゴルフ

1